

# 三原市

## 子供の読書活動推進計画

(第二次)

三原市教育委員会  
平成30年3月



# 目次

## はじめに

ページ

### 子供の読書活動推進のための目標及び方策

#### 本に親しむ 本を読むきっかけの提供

- |                      |   |
|----------------------|---|
| 1 乳幼児期からの本の読み聞かせ     | 1 |
| 2 推薦図書を紹介            | 2 |
| 3 イベントを通じた読書活動の普及・啓発 | 3 |

#### たくさん読む 本を読むことの習慣化

- |                     |   |
|---------------------|---|
| 4 学校における全校一斉読書活動の推進 | 4 |
| 5 市立図書館における読書活動の推進  | 5 |

#### 目的に応じて読む 本を読む力の育成

- |                        |   |
|------------------------|---|
| 6 学校における読む力を育てる指導の充実   | 6 |
| 7 地域における本を読む力を育てる機会の提供 | 7 |

#### 本から学び自らの考えを深める 本を読んで生き方を考える機会の充実

- |                            |   |
|----------------------------|---|
| 8 本を読んで自分の生き方を考え、表現する機会の提供 | 8 |
| 9 体験活動への展開                 | 9 |

#### 環境の整備 読書活動の推進に向けた整備

- |                      |    |
|----------------------|----|
| 10 蔵書等図書資料の整備・充実     | 10 |
| 11 司書よおび司書教諭等の研修等の充実 | 11 |

はじめに

「子どもの読書活動の推進に関する法律」の基本理念では、「子どもの読書活動は、子どもがことばを学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で不可欠なものである。したがって、すべての子どもがあらゆる機会にあらゆる場所において自主的に読書活動ができるようにしなければならない。」と記されています。

国において、平成25年度から平成29年度までを計画期間とする第三次の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定され、これを受けて広島県においても、平成26年度から平成30年度を計画期間とする「広島県子供の読書活動推進計画（第三次計画）」が策定されました。

三原市教育委員会では平成19年8月に「三原市子どもの読書活動推進計画」を策定し、子供の読書活動の推進に取り組んでまいりました。

この取組によって、市立図書館における児童図書貸し出し冊数は、平成17年度の15.2万冊から平成28年度の20.2万冊に増加するなど、一定の成果が見られました。

その一方で、1ヶ月に一冊も本を読まない児童生徒の割合（不読率）は、平成18年度と平成29年度を比較して、小学生で0.1%、中学生で0.4%しか減少していないなどの課題が見られました。

また、社会が急激に変化し、複雑化していく中で自立的に生きていくためには、特に社会に出る前段階において、読書活動を通じて本から学び、自らの考えを深める指導を行うことが非常に重要となってくると考えています。

こうしたことから、今回、これまでの取組の成果や課題を踏まえ、「三原市子供の読書活動推進計画」（第二次）を策定しました。関係機関や団体などと連携・協力しながら、5年以内に目標を達成するように積極的に取り組んで参りますので、皆様の更なる御支援と御協力をお願いいたします。

平成30年3月

三原市教育委員会教育長 梶山 幸範

## 本に親しむ 読むきっかけの提供

### 1 乳幼児期からの本の読み聞かせ

読書は、子供たちの思考力、判断力、表現力などを育み、豊かな人生を生きる基盤となります。本が子供たちにとって身近な存在となるように、日頃から本に親しませることが大切です。そのためには、子供達が魅力的で楽しい本と出会うきっかけを作ることが必要です。

#### 目 標

- 幼稚園・保育所・認定こども園における、毎日の読み聞かせ 100%を継続します。
- 保護者におすすめの絵本の紹介をしている幼稚園・保育所・認定こども園の割合を 100%にします。

#### 現 状

- 幼稚園・保育所・認定こども園の読書活動（平成 29 年度）

読み聞かせを毎日実施している	100%
保護者におすすめの絵本の紹介をしている	90.5%

- 母子保健推進委員による 3 か月児訪問の時に、市から絵本をプレゼントしています。
- 5 か月児相談において、読書ボランティアが「読み語りの部屋」で絵本を紹介しています。
- 母子保健推進委員によるベビーサロン等において、絵本の読み聞かせを実施し、読書の楽しみを啓発しています。
- 市立図書館において、読書ボランティアによる、「0 歳からのよみかたり」や幼児・児童向けの読み聞かせなどが定期的に行われている。

#### 方 策

- 市立図書館が中心となり、「よみかたり」や「おはなし会」の継続的開催や子供向けの本の展示会を行い、子供を読書に親しませる機会の提供に努めます。
- 幼稚園・保育所・認定こども園において、教育課程・保育計画に基づく読み聞かせなどの計画的な読書指導の充実を図るようにします。

## 本に親しむ 読むきっかけの提供

### 2 推薦図書を紹介

子供たちにおすすめの本を紹介することは、子供たちが魅力的で楽しい本と出会うきっかけとなる大切な取組です。また、図書館や学校が推薦図書や必読書を選定し、児童・生徒に示すことは、発達段階や子供の実態にあった図書を提供するために重要な取組です。

#### 目 標

- 学校における推薦図書の選定を 100%にします。
- 市立図書館における推薦図書の紹介 100%を継続します。

#### 現 状

- 小・中学校での推薦図書の選定状況

	小学校	中学校
平成 18 年度	28 / 30 校	9 / 11 校
平成 29 年度	19 / 20 校	10 / 10 校

- 市立図書館では、図書館ホームページや広報誌において、毎月、推薦図書や新刊図書についての情報を発信しています。

#### 方 策

- 各学校が選定している必読書・推薦図書を読むことを読書活動年間計画に組み入れ、計画的に読書活動を推進するように支援・指導します。
- 学校図書館司書の研修において、新刊の情報や推薦図書の展示方法、学校図書だよりやブックトークについて相互研修を行い、子供たちの本との出会いの場を充実させていきます。
- 読書ボランティアや県立図書館などにより作成された様々なブックリストなどの資料を学校図書館・市立図書館に常備したり、市のホームページなどで紹介したりして、広く活用されるようにしていきます。

## 本に親しむ 読むきっかけの提供

### 3 イベントを通じた読書活動の普及・啓発

学校・家庭・地域において、読書活動を推進する気運を高めるためには、学校や地域、市立図書館で行われる様々なイベントを通じて、読書活動の意義や重要性についての普及・啓発に継続的に取り組むことが大切です。

#### 目 標

- 学校における「子ども読書の日」の取組 100%実施を継続します。
- 市立図書館における「子ども読書の日」の取組 100%実施を継続します。

#### 現 状

- 「子ども読書の日」には、各学校や市立図書館で趣向を凝らした取組を実施しています。
  - (例)・「春の読書まつり」として、学校図書館司書等による絵本や紙芝居の読み聞かせや、からくり絵本の体験。
  - ・地域の読書ボランティアによる読み聞かせや音読劇。
  - ・図書委員会による全校集会での読み聞かせやブックトーク。
  - ・「家読」推進の図書室だよりを配付し、保護者への家庭での読書の必要性の啓発。
  - ・幼児から高校生を対象としたおすすめ本の紹介展示。
- 広報誌や図書館掲示等で、随時イベントの情報提供を行っています。

#### 方 策

- 各学校での「子ども読書の日」の効果的な取組を紹介し、子供たちが新しい分野の本に興味を持ったり、読書習慣を身に付けたりするきっかけにつながるようにします。
- 読書活動を推進する気運を高めるため、学校における懇談会等や広報誌、ホームページ等を活用し、読書の意義や重要性について、広く普及・啓発を図ります。
- 市立図書館や市民ギャラリー等において、イベントや研修会・講座等を開催したり、子供の読書に関する作品・資料展示を行ったりして、読書活動の機会の確保に努めます。

## たくさん読む 本を読むことの習慣化

### 4 学校における全校一斉読書の推進

子供が生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成していく上で、学校は大きな役割を担っています。小・中学校においては子供が生涯にわたる読書習慣を身に付けるとともに、自らの読書の幅を拓げるため、様々な本に触れる機会を確保することが重要です。

#### 目 標

- 小・中学校における全校一斉読書の実施 100%を継続します。
- 1か月に1冊以上本を読む児童生徒の割合を、小学校は 97%以上、中学校は 90%になるように取り組みます。

#### 現 状

- 「朝の読書活動」の実施状況  
小・中学校において 100%実施（平成 29 年度）
- 1か月に1冊以上本を読んでいる児童生徒の割合

（ ）内は広島県全体の割合

	小学校 5 年生	中学校 2 年生
平成 18 年度	90.9% (90.1%)	85.4% (78.2%)
平成 29 年度	91.0% (90.8%)	85.8% (84.5%)

（広島県「基礎・基本」定着状況調査児童生徒質問紙調査より）

平成 18 年度と比較して「1か月に1冊以上本を読んでいる児童生徒の割合」がほとんど変化していません。

#### 方 策

- 「朝の読書活動」の一層の充実を図ります。この活動を通して、児童・生徒が読書の楽しさを知り、生涯にわたって、読書をすることの喜びを体得できるようにし、読むことの習慣化を図ります。その際、選書などについて、適切なアドバイスをしていきます。
- 司書教諭や学校図書館司書を中心にブックトークや発達段階に応じた読み聞かせを行ったり、児童生徒が相互に図書を紹介したりするなどして、様々な本に触れる機会を設けます。

## たくさん読む 本を読むことの習慣化

### 5 市立図書館における読書活動の推進

市立図書館は、児童サービスや青少年サービスの充実を図り、「子供の読書活動ボランティア」などと連携・協力しながら、子供と本を結びつける場所としての役割を果たすことが大切です。

#### 目 標

- 市立図書館における子供への貸出状況を把握し、子供の発達段階に応じた児童サービスを行います。
- 市立図書館における児童図書貸出冊数が 22 万冊になるよう取り組みます。

#### 現 状

- 市立図書館における児童図書貸し出し冊数

年度	冊数
平成 17 年度	15.2 万冊
平成 28 年度	20.2 万冊

- 市立図書館では、読書ボランティアの養成講座を行い、読書ボランティア団体のネットワーク活動に対して、場や機会の提供を行っています。

#### 方 策

- 中学生・高校生向けの資料の充実を図り、新刊図書紹介など積極的なサービスを展開します。
- 児童サービスの充実を図るため、学校や、読書ボランティアなどと連携・協力して、子供の読書活動推進の中核施設として、図書館サービスの向上に努めます。
- 子供の読書活動推進に関わる情報の収集を積極的に行い、幅広く発信します。
- 県内公共図書館や大学図書館等図書館関係機関と連携し、図書館サービスの相互協力を図っていきます。
- 読書習慣化の促進を図るため、子供の発達段階に応じたサービスプランを立て、実施します。



## 目的に応じて読む 本を読む力の育成

### 6 学校における読む力を育てる指導の充実

子供が本を読む目的は様々です。目的に応じて本を読むためには、例えば、タイトルや目次、作者名等から目的に合った本を選んだり、目的に応じて複数の本や資料を関連付けて読んだりする力が必要です。このことから、学校では、授業において、意図的・計画的な読書活動を推進することが重要です。また、様々な本や資料を読み取って自分の考えをまとめるような学習を充実させることが大切です。

#### 目 標

- 読書活動年間指導計画を作成している小・中学校 100%を継続する。
- 様々な本や資料を基に自分の考えを持たせる指導をしている小中学校を 100%にする。

#### 現 状

- 読書活動年間指導計画の作成 小・中学校 100%実施
- 様々な本や新聞、資料（図、グラフ、表を含む。）を基に自分の考えを持たせる指導をした学校の割合。

（ ）内は広島県全体の割合

	小学校	中学校
平成 29 年度	85.0% (91.5%)	70% (89.2%)

（広島県「基礎・基本」定着状況調査学校質問紙調査より）

#### 方 策

- 各小・中学校は、読書活動年間指導計画に基づき、学校図書館を計画的に活用して本や資料を読んだり調べたりするなどの学習を充実するようにします。
- 各小・中学校で、様々な本や資料を基に、自分の考えを持たせる指導の充実を図ることにより、児童生徒の読む力を育てます。
- 学級担任や教科担任と学校図書館司書が連携し、授業で使う関連本や資料の準備を行い、学校図書館を活用して、情報を収集、選択、活用する能力を身に付けるようにします。

## 目的に応じて読む 本を読む力の育成

### 7 地域における本を読む力を育てる機会の提供

子供が目的に応じて本を読むことができるようになるためには、学校教育における取組に加え、地域においても一人一人の子供の読む力に応じた読み聞かせやブックトークなど、読書ボランティアとの連携によるきめ細やかな取組が行われていくことが重要です。

#### 目 標

- 読書ボランティア交流会（年4回）を継続して実施し、読書ボランティアのスキルアップを図ります。

#### 現 状

- 現在三原市では、30以上（個人含む）の読書ボランティアが活動しています。（平成29年度）
- 市内小中学生の1週間の家庭での読書時間（平成29年度）

※（ ）内は広島県全体の割合

	小学5年生		中学2年生	
	平成18年度	平成29年度	平成18年度	平成29年度
読まない	17.5%(20.5%)	17.5%(19.2%)	34.6%(37.3%)	32.5%(36.8%)
1時間以下	41.5%(41.3%)	37.1%(37.7%)	36.3%(34.1%)	35.7%(33.0%)
1～2時間	18.3%(21.7%)	22.1%(21.7%)	14.8%(15.5%)	17.7%(15.3%)
2～3時間	10.0%(7.7%)	9.8%(9.5%)	6.6%(6.0%)	7.9%(7.2%)
3～4時間	5.2%(3.7%)	5.1%(4.6%)	2.6%(2.6%)	2.3%(2.9%)
4時間以上	7.0%(5.0%)	8.4%(7.3%)	5.2%(4.3%)	3.9%(4.9%)

（広島県「基礎・基本」定着状況調査児童生徒質問紙調査より）

#### 方 策

- 「子供の読書活動ボランティア」団体リスト（個人含む）を作成して、各学校・幼稚園・保育所等や図書館などで活発な活動ができるように支援する。
- 各小・中学校読み聞かせボランティアに「読書活動ボランティア養成講座」等を紹介し、ネットワーク化のための交流会などを支援する。
- 「子供の読書活動ボランティア」や関係機関と連携しながら、読書の機会の拡充を図る。また、各学校に対して児童・生徒の発達段階に応じて本を紹介してもらうなど、きめ細かな取組を支援していく。

## 本から学び自らの考えを深める 本を読んで生き方を考える機会の充実

### 8 本を読んで自分の生き方を考え、表現する機会の提供

子供が本を読んで感動したことを表現したり、本から学んだことを交流したりすることは、自分の考えを深める一つのきっかけになります。

そのためには、学校や地域などにおいて、読書と自分の生き方を関連付けて考えさせるような機会の充実を図ることが必要です。

子供たちが読書を通じて様々なものの見方や考え方に触れるとともに、生き方を考え、表現する機会を意図的に設定していくことが大切です。

#### 目 標

- 学校外の読書感想文、小論文コンクール（本や資料を活用した作品コンクールに限る）へ応募する学校を100%にする。

#### 現 状

- 学校外の読書感想文、小論文コンクール（本や資料を活用した作品コンクールに限る）への応募状況（平成29年度）

※（ ）内は広島県全体の割合

	小学校	中学校
全校で取り組んで応募	35.0% (46.7%)	60.0% (66.3%)
一部の学年で取り組んで応募	10.0% (25.5%)	20.0% (16.7%)
一部の学級で取り組んで応募	5.0% (2.9%)	0.0% (0.0%)
上記以外の取組により応募	40.0% (17.7%)	10.0% (9.6%)
応募していない	10.0% (7.2%)	10.0% (7.5%)

（広島県「基礎・基本」定着状況調査学校質問紙調査より）

#### 方 策

- 各小中学校は、読書を通して自分の生き方について考えていく学習を行い、「ことばの輝き」優秀作品コンクールの「豊かに表現する部門」や各種団体が主催する読書感想文コンクール、小論文コンクール（本や資料を活用した作品コンクールに限る）に、積極的に応募するようにします。

## 9 体験活動への展開

読書活動を通して学んだことや感じたこと、考えたこと等を発表したり、年齢を超えて交流したりする体験は、子供が、より一層読書をしようという意欲や読む力を高めることにつながります。

### 目 標

- 「子ども司書」養成講座を継続して開催します。

### 現 状

- 「子ども司書」認定者数

年度	認定者数
平成 27 年度	12名
平成 28 年度	9名
平成 29 年度	15名

- 「子ども司書」養成講座内容

講座	日数	内容
全体研修	3日	本や図書館に関する知識や読み聞かせの方法を学んだり、本や読書への興味を高めるための活動を体験的に学んだりする。
市立図書館での 実地研修	3日	図書館サービスの見学や体験をする。
学校や市立図書館での 実習	4日	読書好きを増やすための取組を行う。

### 方 策

- 「子ども司書」養成講座を継続して実施するとともに、活動内容を充実させ、地域や学校における読書活動推進のリーダーを育てます。
- 市立図書館では、中学生の職場体験を通して、読書活動を推進する図書館の仕事について興味関心を高めます。

## 環境の整備 読書活動の推進に向けた整備

### 10 蔵書等図書資料の整備・充実

子供の豊かな読書経験の機会を充実するとともに、資料を活用した主体的な学習をすすめていくためには、様々な興味・関心に応えるような図書資料の整備が必要です。

#### 目 標

- 学校図書館図書標準を達成している学校の割合が 80%以上になるようにする。
- 市立図書館における児童・青少年用図書の一層の整備・充実を目指します。

#### 現 状

- 学校図書館図書標準に達している学校数

	小学校	中学校
平成 17 年度	23%	0%
平成 29 年度	65%	70%

- 市立図書館児童書蔵書数 117,803 冊 (平成 28 年度)
- 市立図書館ホームページから図書検索が可能です。また、広島県域図書館情報提供ネットワークによる県立図書館蔵書検索システムにも対応しています。

#### 方 策

- 児童生徒に必要な図書を整備する上で、国が学級数に応じて定めている蔵書冊数(学校図書館図書標準)を達成するよう蔵書の整備を進めます。
- 子供の読書活動をいっそう推進していくために、市立図書館の図書資料の整備・充実を図るとともに、図書館と学校図書館及び図書館相互の連携や協力を進めます。
- 学校での読書活動に必要な資料や情報の収集・提供に努めます。
- 市立図書館サービス網の構築を図るとともに、地域コミュニティセンターなどへの配本活動を実施します。
- 市立図書館は、計画的に、「ヤングアダルトコーナー」「ブックスタート(赤ちゃん絵本)」など、子供の図書の一層の充実を図ります。

## 環境の整備 読書活動の推進に向けた整備

### 11 司書および司書教諭等の研修等の充実

司書は、図書館資料に関する広範な知識や、子供の発達段階に応じた図書の選択に関する知識、子供の読書指導に関する知識・技術等を身に付け、図書に関する案内や助言を行うとともに、子供の読書活動に関する相談等に応じる重要な役割があります。また、司書教諭は学校図書館を活用した教育活動の企画の立案・実施等、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担っています。

#### 目 標

- 市立図書館における有資格司書の比率を高めていきます。
- 市内学校図書館司書の連携と相互研修の機会を作ります。
- 読書指導に関する研修会を実施し、教職員の指導力の向上を図ります。

#### 現 状

- 学校図書館司書配置状況（小中学校合計）

	配置している学校数	人数
平成 18 年度	21/41 校	5 名
平成 29 年度	30/30 校	10 名

- 市立図書館における司書の配置状況

年度	司書資格保有者	図書館職員
平成 18 年度	7 名	21 名
平成 29 年度	8 名	22 名

- 本市の小中学校に在籍する司書教諭（79 名）（平成 29 年度）

#### 方 策

- 市内学校図書館司書の連携強化と相互研修の機会を作ります。
- 市立図書館において司書および職員を対象とした研修機会の充実を図り、資質向上を図ります。
- 司書教諭資格取得の講習について、小・中学校へ情報を提供し、司書教諭の資格取得を呼びかけていきます。
- 読書指導に関する研修会等を通して、教職員の指導力の向上を図ります。

